

# 令和7年度第3回高浜市障害者地域自立支援協議会本会議次第

日時 令和8年2月25日（水）13：30

場所 いきいき広場 いきいきホール

## 1. あいさつ

## 2. 報告

### （1）部会活動について【資料1】

- ・ 障がい福祉サービス事業所部会
- ・ 障がい児通所支援事業所部会
- ・ 防災部会
- ・ 地域生活支援拠点部会

### （2）研修事業について【資料2】

### （3）高浜市障がい者福祉計画等アンケートの結果について【資料3】

## 3. 議事

### （1）令和8年度高浜市障害者地域自立支援協議会の取組について【資料4】

## 4. その他

## 令和7年度 サービス事業所部会報告

<第1回> 令和7年6月4日(水)

今年度部会の取り組み内容についてグループワーク実施

- ・「事業所の困り感」について意見を出し合った
- ・医療面、金銭面、生活面、運営面、作業の確保、利用者・家族対応をはじめ様々な困り感が出された。サービス種別によって困り感の内容も異なるところもあれば、生活面では重複する点もあった。
- ・今回困り感が出た内容から、今後の部会で取り上げる事例検討等のテーマに反映させていく。

<第2回> 令和7年9月10日(水)

第1回の部会でチョイソコバスの利用についての困り感が出ており、事例を通して検討

- ・チャレンジサポートたかはま木村氏からチョイソコバス利用にかかる3事例が提供された
- ・各事業所の立場から意見交換をし、登録方法、運行日、運行時間、料金への問題提起と、関連して障がいのある方の移動手段の課題が出された。
- ・結果、チョイソコ高浜についての意見を取りまとめた。(別紙参照)

<第3回> 令和7年12月10日(水)

第1回の部会で精神疾患のある方の対応について困り感が出ており、精神疾患のある方への支援について意見交換をした。

- ・事業所で対応できることは工夫して対応
- ・刃物等危険な物の保管を徹底
- ・本人のモチベーションを維持し向上させるようなかかわりが望ましいが、難しい。精神疾患の対応等、声かけ等勉強できるといい。精神科の先生からフェーズについて説明を聞くと理解が進む。基本的なレクチャーがあるといい。(研修希望)
- ・独語の多い方は、自傷行為のある方、躁状態の症状に自覚がない方は、周りの人に影響がある
- ・職員側のケアと医療連携が必要

<第4回>

今年度の部会の振り返り

- ・チョイソコ高浜に対して困っているケースの紹介があったが、具体的な提案にした方が良いとの助言あり。また、関連して、高浜市内の障がいのある方の移動手段が確保できていないという課題があった。

来年度の取り組みについて

- ・事業所連絡会を、年度の始めに1回は実施していく

えんJOYネット高浜の登録説明

- ・事業所連絡会内の連絡ツールとして活用できるように整備

## 別紙

チョイソコバスの地域課題としての意見は以下の通り

令和8年2月25日開催の自立支援協議会本会議で報告する。

1 チョイソコバスになって良かった点

- ・行動範囲が広がったという利用者様もいる
- ・チョイソコの説明会に職員が同行し、利用開始当初は予約のフォローが必要だった方が今は一人でも予約ができるようになった方がいる。
- ・刈総に行く時はいきいき号、それ以外はチョイソコと併用しながら上手に活用できている方もいる。

2 障害のある方が利用に困っていること（課題）

(1) ルートについて

- ・毎回ルートが違うということで不安になってしまう方がいる。

(2) 登録と予約

- ・事業所でチョイソコの説明会を実施したが、予約をそれぞれで行うことが難しく、事業所がフォローしている。
- ・同じ事業所の方が利用予約をとっても（出発点が一緒でも）全員が同じ便にはならないので時間がずれることもある。
- ・利用したい日時が満席になると予約が取れないこともある。  
※チョイソコ利用者が増えたことで既存の利用者が使えない場合がある。
- ・登録や予約が難しいことや、巡回バスと比較すると自発的な行動が必要になることも踏まえ、知っていても利用につながらない人が多々いる。
- ・予約をとる際に時間や便をたくさんの選択肢の中から選ばなければならないとなるとどれを選んだらいいかわかりにくく取りにくい。

(3) 運行上の課題

- ・予約時間にバスが来ない場合、携帯を持っていない方はバスがどこにいるのかという確認もキャンセルの連絡もその場では行えない。
- ・公式には利用希望時間の30分前から予約が出来るとなっているが実質2h前予約になっているので、受診で利用する場合は診察時間の終わりがわからない為受診後に予約をとることが難しい。タクシーを使うと高くなることや、通院等介助で支援に入ると支給量の時間で不足する場合もある。
- ・朝の天候に合わせて「今日は雨だからチョイソコをお願いしたい」と思っても通勤などでは2h前予約だと難しい。
- ・乗り合わせになり時間やルートが変わると駅までチョイソコで行き、そこから電車に乗りたい場合に時間が間に合わない場合がある。
- ・乗り合わせになり時間やルートが変わると駅までチョイソコで行き、そこから電車に乗りたい場

合に時間が間に合わない場合がある。

- ・土日の運行がないので通所、帰省、子ども食堂、イベント参加に利用がしにくい。
- ・車いすの方が使いたくても車いすの積み下ろしのサポートをしてもらえないことと、トランクに車いすを積んでいただくことができないので、乗客が少ない便しか車いすの方は利用ができない。
- ・いきいき号の時よりも利用料金が高くなった。
- ・介助者も利用料金の負担がある。

### 3 課題に対して工夫できることやリクエスト

- ・一年間はテスト運行なので困り感を上げていきたい。
- ・運営側に登録や予約のサポートの仕組みがあるといい。
- ・ヘルパーなどの介助者の運賃免除など負担軽減があるといい。
- ・障がいのある方の利用料金の負担軽減があるといい。
- ・従来の定期巡回バスも一部残してほしい（天候など急な利用時に使えるバスが欲しい）
- ・市役所（本庁）以外でもチケットを販売してほしい。
- ・車いすの積み下ろしのサポートがあるといい。また、トランクに車いすを積んでいただき、乗客が多い時でも利用ができるようになるなどの対応をしてもらえると有難い。（合理的配慮がほしい）
- ・土日も運行してほしい。
- ・運行時間を拡大してほしい。
- ・予約受付時間（電話）も延長してほしい。
- ・定期券があるといい。
- ・携帯がない方でも遅延やキャンセルに対応できりるように拠点になる事業所などにタブレットを設置するなど確認・連絡手段を確保できるといい。
- ・天候で警報が出たり、災害時に運行されるのかどうかなども周知してほしい。  
（運行してほしい。そういう時は緊急車両があってもいいのではないか）
- ・いきいき号が満車の時はカネ久で対応してもらえた。そういう対応があるといい。

### 4 チョイソコ以外でも移動で困ること

- ・天候により公共交通機関に遅れが出た場合の対応はどうしているか？
  - 通所先の事業所が送迎するなどの対応をしている
  - 車を運転する利用者様が他の利用者様を乗り合わせてくれたり、「事業所が」というより「それぞれがみんな何が出来るか」という考えで対応している。
  - 普段からイレギュラーなど、どういう状態になったら連絡を取り合うということを確認しておくことが大事。
- ・タクシー券をもらっているが、タクシー券を市役所まで受け取りに行くためにタクシーを利用するともったいない。別の受け取り方法はないか。

令和7年度 障がい児通所支援部会報告

<第1回> 令和7年6月13日(金)

①「事業所でできる子育て支援について」グループワークで情報交換

- ・課題：事業所が休みの時の居場所。家族への支援が難しい。  
家族に課題がある(精神)場合、一人で抱え込んでいる。  
兄弟がサポートしている(ヤングケアラー?)  
支援が弱い親の子は、衣服の汚れ、体臭がすることがある。子ども社会の中でも心配。

②「ライフステージ移行期のサポートの取り組みについて」情報共有

- ・次のステージへの情報のひきつぎは、他市や他事業所に変わると、繋がりが弱いと情報がもらえないし、提供もできない。

<第2回> 令和7年9月12日(金)

事例検討(全体討議) 事業所でできること、地域の課題を出す

事例① ひとり親世帯。

保育園在園中。加配がついているため延長保育の利用ができない。収入が不安定。仕事と家事を一人で担い疲弊状態。食事や入浴をさせられない日もあり、「仕事と子育てで精一杯。栄養や生活リズムを考える余裕がない」母のケース。

- ・必要な社会資源(意見)  
加配児も利用できる延長保育制度、保育園や事業所以外で短時間預かりできる居場所。  
行政からの制度・サービス情報を分かりやすく伝える仕組み。

事例② 精神障がいのある親がいる世帯。

父親単身赴任で精神障がいの母親が障がい児と下の子を育てている。母親の体調が悪いと、放任状態になる。下の子が障がい児の世話をしている状況。母親は周りに知られるのが怖いと言いつつ、相談できず孤立状態のケース。

- ・必要な社会資源(意見)  
きょうだいを安心して預けられる場所(夜間・24時間対応の預かりをしてくれる場所)  
ファミリーサポート

<第3回> 令和7年12月5日(金)

精神疾患のある保護者支援について事業所での取り組みを意見交換

- ・個人情報の把握と共有の範囲の判断が難しい
- ・虐待が疑われる。場面の判断が難しい
- ・支払いの遅れ・急なキャンセルの対応
- ・保護者支援に限界があり、関係機関調整が必要になる

<第4回> 令和8年2月6日(金)

令和8年度の部会の方向性について意見交換

- ・事業所連絡会という組織を設け、事業所間の情報共有や研修実施をしていく。  
※本事業所連絡会は、自立支援協議会内の組織とする。
- ・えんJOYネット高浜を活用して意見交換もしていく

令和7年度 防災部会報告

<第1回> 令和7年6月16日(月)

今年度の目標

- ・実際に自分たちでやってみて体験してみて、何が必要かをやってみる機会を作る。

今後の進め方及び次回の会議内容について意見交換

- ・防災の知識を深めるためにも、講演会をするなど当事者の体験ができる場所が減らないようにしたい。
- ・避難の訓練を当事者も一緒にやれると良い。11月16日の総合防災訓練に参加してはどうか。
- ・地域の防災訓練に参加すると、地域にどんな人がいるのかを知る機会になる。

<第2回> 令和7年8月25日(月)

防災・防犯G富田氏から11月16日の総合防災訓練(南部まち協の訓練)の情報を受け、部会として参加可能か確認。

9月20日開催の防災フォーラムで避難所体験コーナーの手伝いについて確認。

部会内で障がいがある方の避難訓練体験実施について検討

<第3回> 令和7年10月2日(木)

防災フォーラムの振り返り

総合防災訓練(南部まち協の訓練)の参加方法について確認

- ・所属団体参加希望をとりまとめて、部会としての参加人数報告をして参加

<第4回> 令和7年11月4日(火)

部会内で障がいのある方の避難訓練体験会

- ・2人ペアになり、いきいき広場会議室Bから高浜市役所正面玄関まで避難する想定で移動する。模擬体験者と介助者の役に分かれ、往路と復路で役割を交代し、全員が体験した。
- ・障がいの体験内容：イヤーマフ装着、アイマスク装着、四肢固定+加重、車椅子

<第5回> 令和8年1月15日(木)

今年度の振り返り(訓練と体験を実施)

令和7年11月16日(日)に行われた総合防災訓練(南部まち協の訓練)の振り返りを行う。

発災時から復興までの意見出し

- ・2グループに分かれて心配なこと、不安なこと、今準備をしていることについて意見出し
- ・上記意見を来年度の取り組みへ繋げる
- ・年度単位で考えるのではなく、部会としての課題を継続して取り組める目標設定をする。

以上

令和7年度 地域生活支援拠点部会報告

<第1回> 令和7年6月2日(月)

令和6年度下半期地域生活支援拠点評価アンケート結果について報告と意見交換

地域生活支援拠点等の整備と令和7年度取り組み内容について説明

市内事業所の地域生活支援拠点等への登録制度及び加算について説明

<第2回> 令和7年10月21日(火)

令和7年度地域生活支援拠点の上半期の評価について説明と意見交換

緊急時対応事例検討

- ・アルコール依存症の神経障害で下肢に障がいが出て一人では移動困難な方が、父親の入院・死亡に緊急対応が必要になったケース。また、金銭困窮が課題。

<第3回> 令和8年2月10日(火)

令和7年度地域生活支援拠点の下半期の評価結果について説明

- ・人材育成について意見交換

緊急時対応事例を通し、以下の点について意見交換

- 母一人、子一人の世帯。母親の急な入院により主介護者不在となったケース
- ・どのような備えがあると良いか(事前に保護者にできることは?)
- ・備えを提案した時、保護者が抵抗を示す心理、原因は何か

令和8年度の部会について説明

令和7年度 高浜市障害者地域自立支援協議会研修報告

1 自立支援協議会主催研修

(1) 「問題解決しない事例検討会」

講師：日本福祉大学 福祉経営学部

福祉マネジメント学科（通信教育）准教授 田中 和彦 氏

開催日：令和7年7月2日（水）13：30～16：30

場所：高浜市いきいき広場2階 いきいきホール

参加者：34名

テーマ：『問題解決しない事例検討会』

問題解決しない事例検討会は、その名の通り問題解決が目的ではなく、本人に対する理解を深めていくにあたっての仮説を立て、その人を捉え直すことを目的に開催。

支援者が「問題」と捉えている事柄が、その人にとってはどんな意味や必要性があるのだろうか、その人からはどんな景色が見えているだろう、といった解釈を深めた。

<感想等>

- ・支援者がそれぞれ思っていることは必ずしも同じとは限らないため、様々な人の意見を取り入れいく必要があると気づきました。
- ・支援者が問題と捉えている事柄が、その人にとっては問題ではなく、必要な事柄なのかもしれない。違う観点から見る必要性や、なぜだろうと考える過程も理解を深めることに繋がるのだと分かった。
- ・色々な解釈、自分の解釈のクセや偏りを知る機会になりました。
- ・支援者が課題と思っていたことは本当に課題なのか？なぜそのような行動が起きているのか、その方の背景や言葉にできない思いを想像し、勝手に解決しようとせず、今一度ご本人の心に寄り添った支援を意識して行っていこうと思いました。

(2) 利用者中心の支援を考える虐待防止研修会

講師：日本福祉大学 福祉経営学部

教授 綿 祐二氏

開催日：令和8年2月13日（金）15：00～17：00

場所：高浜市いきいき広場3階 多目的ホール

※ハイブリット形式での研修とし、一部 Zoom での参加

参加者：56名（Zoom参加者を含む）

テーマ：障がい者虐待防止 ～支援・ケアの合理的説明、職場環境整理を考える～

研修のポイント

- ・虐待・不適切支援・身体拘束の基本的理解
- ・日々のケアや支援は何に影響するか／イライラしたときの対処法
- ・日々のケアの振り返り
- ・虐待・身体拘束の考え方・現場における不適切支援
- ・支援における「合理的配慮」合理的な説明ができること
- ・虐待事案が起きたときの組織の対応

<感想等>

- ・虐待防止に向けては、日常の支援の取り組みの中でおかしいと感じていることをスタッフ間で問題共有して、その改善に向けて具体的な取り組みに繋げていくことが重要だと学びました。
- ・事業所内で話し合いができることの大切さを改めて考えることができました。判断は世の中の人、

支援の是非は社会の常識で考えるという視点は、自分には弱い部分だと感じました。

- ・職員の日頃感じる違和感やストレスに丁寧に向き合って対応していく必要を感じました。事業所などは日々アップデートすることが大切という言葉が印象に残りました。

## 2 障がい児通所支援部会主催研修

S S T（ソーシャルスキルトレーニング）研修

講師：社会福祉法人くるみ会 公認心理士・臨床心理士 梅村 佳樹氏

（愛知県障害児等療育支援事業担当者）

開催日：令和7年11月6日（木）10：00～12：00

場 所：高浜市いきいき広場 会議室B

参加者：31名

テーマ：S S Tの基本的な考え方 ～療育の場での活用について～

SSTは、ソーシャルスキルトレーニングは、認知行動療法の1つで、様々なプログラムを通して対人関係など社会生活に必要なスキルを効果的に学習できるように構造化されたトレーニング方法。

その目的は、①社会に必要な考え方や行動を学ぶ、社会生活・集団生活での対人関係や社会活動を円滑におこなうためのスキルを身につけること。②学んだ知識や行動を、日常の学校や家庭、放デイ等の社会生活で実践できるようにすることで、その基本を具体的に学びました。

<感想>

- ・やり方はひとつではなくてその子供に合わせてやっていくことが大切。
- ・そのやり方はただ何となくやるのではなく、きちんとした目的を持って行えるようになりたいです。
- ・支援者もスキルの向上が大切なのだと改めて考えさせられました。
- ・日常がソーシャルスキルを学ぶ機会だと分かりました。
- ・日常生活に近い場面でのS S T設定しスキル獲得・日常生活で使えるようになると良いと思いました。

高浜市人にやさしい街づくり及び障害者施策審議会

高浜市障害者地域自立支援協議会

障害者団体・親の会・サービス事業所・民生委員・学校・保健・医療（病院）・社会福祉協議会  
基幹相談支援センター・介護障がいG

障がい児事業所連絡会

サービス事業所  
基幹相談支援センター  
相談支援事業所  
介護障がいG

障がい福祉サービス  
事業所連絡会

サービス事業所  
基幹相談支援センター  
相談支援事業所  
介護障がいG

運営会議（事務局会議）

市・基幹相談支援センター

相談支援会議

基幹相談支援センター  
相談支援事業所

くらし安心ネット

（地域生活支援拠点）  
基幹相談支援センター  
介護障がいG

部会

児・家族部会

構成員  
サービス事業所  
相談支援事業所  
こども家庭センター  
基幹相談支援センター  
介護障がいG

医療的ケア児  
ワーキンググループ  
（医療的ケア検討会）

構成員  
相談支援事業所・こども育成G  
こども家庭センター  
基幹相談支援センター  
介護障がいG

防災部会

構成員  
サービス事業所・相談支援事業所  
障がい者団体・障がい者家族等  
民生委員・社会福祉協議会  
基幹相談支援センター  
防災防犯G・介護障がいG

地域生活支援部会

構成員  
サービス事業所・相談支援事業所  
障がい者家族・精神科病院  
地域活動支援センター  
基幹相談支援センター  
介護障がいG

※検討課題によって、行政の関係部署等の参加を依頼する

令和8年度 高浜市障害者地域自立支援協議会各分会等取り組み内容

	会議名	構成員及	運営目的	取組内容	開催頻度
部 会	<b>児・家族分会</b> 医療的ケア児WG (医療的ケア 検討会)	サービス事業所 相談支援事業所 こども育成G こども家庭センター 基幹相談支援センター 介護障がいG	障がいのある児童と家族に切れ目ない一貫した支援を 提供するために各機関との連携構築と強化を図る。 家族が安心して子育てができる体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>多問題家族支援のしくみ作り</li> <li>障がいのある子への育児にサポートが必要な親・障がいのある親を持つ子への支援</li> </ul> ・医療的ケアが必要な児童の現状把握・支援体制の構築の検討	年4回 年4～6回
	<b>防災分会</b>	サービス事業所 相談支援事業所 障がい者団体 障がい者家族等 民生委員、社協福祉協議会 基幹相談支援センター 防災防犯G、介護障がいG	有事の時でも、要支援者が安全に過ごせるような体制 の整備 個々の障がい者に応じた支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>平時の情報周知</li> <li>災害時の情報収集のしくみ</li> <li>障がい者の避難生活への備え</li> </ul>	年4回
	<b>地域生活支援分会</b>	サービス事業所 相談支援事業所 障がい者家族 精神科病院 地域活動支援センター 基幹相談支援センター 介護障がいG	精神障害者の地域課題を整理し、具体策を検討する。 障がいの重度化・高齢化や親亡き後を見据え、地域の 実情に応じて整備し、障がい者（児）の生活を地域全 体で支える体制の構築 障がいと介護といった複合的な問題のある家族支援体 制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害支援の課題分析と必要な支援の検討</li> <li>地域生活支援事業所間のネットワークのしくみ作り</li> <li>8050世帯の実態把握（支援が入っていないケース）</li> <li>平時からできる緊急時対応の実施</li> </ul>	年4回
事務局等	<b>運営会議 事務局会議</b>	介護障がいG 基幹相談支援センター 相談支援事業所	相談支援事業、各分会で明らかになった地域の情報や 課題、ニーズを集約し、整理・分析の実施 相談支援事体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題の検討分会、対応策への流れを検討</li> <li>各分会の協議内容計画、実施、振り返り</li> <li>全体会の協議事項の提案</li> <li>事業所及び職員の質の向上に向けた研修実施</li> </ul>	月1回
	<b>くらし安心ネット</b>	介護障がいG 基幹相談支援センター 相談支援事業所	障がいの重度化・高齢化や親亡き後を見据え、地域の 実情に応じて整備し、障がい者（児）の生活を地域全 体で支える体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケース共有及び検討</li> <li>緊急時プランの作成と緊急時の迅速、確実な相談支援の実施</li> <li>機能ごとの課題整備</li> </ul>	月1回
相談支援	<b>相談支援会議</b>	基幹相談支援センター 相談支援事業所	サービス担当者会議等からの課題を共有と協議 相談支援の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分会での検討内容（事例検討含む）を協議</li> <li>利用者ニーズからの地域課題発見</li> <li>困難事例検討</li> </ul>	毎週火曜日
事業所	<b>事業所連絡会 （児・者）</b>	サービス事業所 相談支援事業所・基幹 介護障がいG	事業所間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所間情報共有</li> </ul>	